



第28期生のみなさん、入学おめでとう！ 東京建築カレッジから始まる建築従事者の道！

カレッジ通信

編集・発行

東京建築カレッジ

授業見学
大歓迎！Tel 03
(5950)
1771

第28期生の入学生は23人でした（前期比1人増）。内訳は、男性21人・女性2人、高校新卒は9人（39.1%）です。うち工業高校建築系は3人でした。年代構成は10～20代で18人（78.3%）・30代で5人（21.7%）となっています。カレッジ無料職業紹介所登録事業所からの研修派遣は、8社から8人（34.8%）。このうち7社7人はカレッジから入学応募者を紹介し正社員採用に至ったものです。登録事業所以外でも8社9人が所定労働時間内の職業訓練としての研修派遣です。

4月5日の入学式では小堀晴野さん（川津工務店）が新入生を代表し決意表明しました。

今まで就いた仕事は、農業からグラフィックデザイン、子どもの林間学校のような職員から、庭師などなど。そんな中、私は幸せとは何だろうと本気で考えるようになりました。思えば、このありきたりな問いに挑み始めたのは、東日本大震災の後だったかと思っています。元々、日本社会からあふれがちだった私は、10代の頃から自分の居場所を探るようにボランティアに興じたり、様々な職を転々としてきました。しかし、なんだかどこへ行ってもいつもシツクリせず、その答えは見つかることができないままでした（中

小堀 晴野



自分の居場所をずっと探していました。
今、たどり着いた、大工の仕事と、東京建築カレッジ

略）。

やがて、その興味は、人間が一番時間を過ごす「住む」環境に目が向くようになっていきました。私の欲求はこの様々な経験を経て、段々と答えを出すようになってきたのです。そして辿り着いたのが、大工という答えです。

正直、女性の私にはチャンスが回ってこないのではないかと感じていたのが悔しいですが素直な気持ちです。しかし、先進国においてジェンダー平等で最下位、転職キャリアがあまり好まれないこの日本で、私を受け入れてくださった川津工務店、男女共に積極的に技術継承の機会を与えている建築カレッジの皆様には感謝の念が絶えません（中略）。

私は、世界中

からも評価の高い日本の伝統技術とその心を継承し、また女性の立場から、ジェンダーギャップ指数の改善にも寄与したいと考えています。

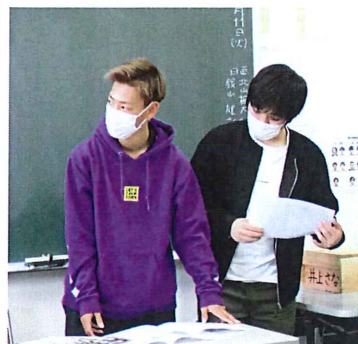
これから2年間、一緒に学んでいく仲間の皆さん、卒業した後も、同じ人生の時間を建築していく仲間として関係を作っていきたい。柱や梁（はり）のように、持ちつ持たれつ、倒れかけたら補強し合えるような人間関係を目指していきたい。



オリエンテーションで助言を聞く新入生

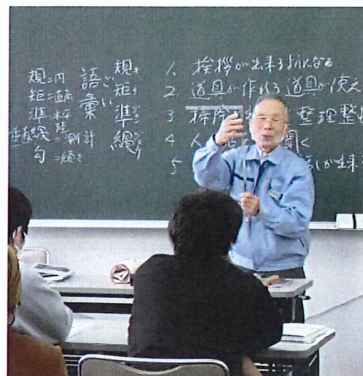
建築の仕事の面白さを座学と実習でつかむ！ カレッジの学びの入り口、9日間の「集中授業」

1年生の
授業から



「安全工学演習」

第2期生の佐々木雄司さん(大工)による安全衛生学習です。江東実習場での安全な作業について約束事をまず確認します。現場の危険箇所の指摘と改善策の提案をグループに分かれて行うゲーム感覚の授業は毎年盛り上がります。佐々木先生の現場用語解説も充実しています。



「木造工作法」

橋本英夫さん(大工)が本校の成り立ちや「学習の目標」の解説から話します。建築では欠かせない要素である、規(円)、矩(直角)、準(水平)、繩(計測、垂直)、勾(傾き)の意味については自然界の法則から解説。建築の仕事の奥深さを伝え、誇りを駆り立てます。

新入生は入学式の翌日4月6日から日曜日を除き9日間連続の「集中授業」を受けました。本校の学びのねらいを解説する「木造工作法」、日常作業に潜む危険をグループ学習する「安全工学」、大工手道具のつくり方、図面の理解と墨付けの重要性、継手・仕口など加工の基本を学ぶ「木造工作実習」、建築の実務に引き寄せて中学・高校数学を復習する「建築測量基礎」、入職者教育の「建築労働論」で構成しています。



「建築測量基礎」

元都立高校教員で第9期生の黒田順さんによる独自テキスト「建築従事者のための数学講座」を使い、グループ学習で算数や中学数学から学び直します。例えば「分数同士の割り算、なぜひっくり返して掛けるのか」。説明を理解できた子は「わかった!」と声を上げます。



「木造工作実習」

大工手道具一式が教材です。初日は簡単な図面を見ながら道具箱を作るところから。そして新品の玄能や鋸、鑿(のみ)に名前を書き、鑿の裏押しや砥ぎなど、道具づくりを一つ一つ教わっていきます。サシガネの使い方、墨付けの仕方を覚えた後に、仕口、継手の加工に入ります。「今まで本の中でしか見たことがなかった仕口や継手を実際に作り、9日目の自分とは比べられないところまで理解が及んだ」(設計職)。



原寸図に基づき慎重に墨付けする研修生たち

2年生の 授業から

進級後、最初の課題は「廻り階段」の製作。電動工具を使うため慎重に作業をしています。

廻り階段をつくる

今年の集中授業の「建築労働論」は、3K(きつい、きたない、きけん)から新3K(給料増、休日増、希望)への挑戦、「働き方改革」など業界の変化、資格取得の重要性の説明、本校母体の東京土建の活動紹介などを行いました。



業界の変化を語る渡辺理事長

「建築労働論」